

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

昨年、セミの寿命について笠岡高の植松蒼さんが行った研究が、山陽新聞紙面やインターネットのニュースサイトで話題となりました。植松さんについての記事を読み、質問に答えましょう。



植松さん・笠岡市笠岡、古城山公園

セミの調査などに取り組んだ場所へ思い出を振り返る植松さん。笠岡市笠岡、古城山公園

「セミの寿命1週間は俗説」調査の植松さん

「セミの寿命1週間は俗説!」。そんな話題が昨年、本紙紙面やインターネットのニュースサイトをにぎわせた。笠岡高の植松蒼さん(18)の研究を紹介した記事だ。ほかにも昆虫に関する調査活動で注目されてきた植松さんは今春、高校を卒業し、高知大に進学する。笠岡市を離れる前に、探求心と「昆虫愛」にあふれた少年時代からのエピソードを聞いた。

あふれる「昆虫愛」、探求心 高知大卒業 新フィールド期待

「セミの寿命」は、園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

2016年夏、さまざまな種類の計863匹にマーキングし、15匹を再捕獲。最長のアブラセミで32日間、生存することを突き止めた。この成果は昨年5月の「中四国地区生物系三学会合同大会(東広島市)で最優秀賞に輝き、本紙は同6月に紙面や「山陽新聞」デジタル(さんデジ)などで紹介。反響は国内外に広がり、台湾の雑誌にも掲載された。植松さんは幼い頃から、自転車で行ける公園で鳴いたため、列車の時間内は持たない可能性があり、会場周辺で採集したという。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

園や神社を昆虫研究の主なフィールドワークの場としてきた。小学1年で4種類のセミの鳴く時間の違いを調べ、2年ではセミの雌より雄の方が羽化が早いことを確認する調査を始めた。いずれも夏休み中には毎日、定点観測。羽化調査の「抜け殻集め」は小学校卒業まで続けた。

の昆虫・ヒラズゲンセイを、広島県内で初となる福山市で発見。こ

れも本紙やネットニュースで話題となった。「自分で見て確かめない」と納得できない。知識がたまっていくのが楽しいという。植松さん。倉敷市立自然史博物館(同市中

央の「むしむし探検隊」に所属していた植松さんをよく知る同博物館の奥島雄一学芸員は「目の付け所が鋭く、思ったことを実行に移す行動力もある」と評する。

4月から高知大理工学部で学ぶ植松さんは「岡山とは環境や気候が違う高知で新しい昆虫や生き物、植物に出合いたい」と新たなフィールドに胸を膨らませている。(高橋由大)

3月28日付、山陽新聞朝刊おかくらプラス

Q1 植松さんが注目された「セミの寿命」の研究は、どのような内容ですか。第2、3段落を読み答えましょう。

Q2 植松さんは、主にどんな所をフィールドワークの場としてきたでしょうか。

Q3 セミの寿命以外に、植松さんがこれまで取り組んでいた研究はどんなテーマでしょうか。

みんなも
興味あるテーマを
研究してみよう

